

魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 廣瀬 優佳里 所属: 佐賀大学教育学部附属特別支援学校 記録日: H31年 2月 3日
キーワード: 将来の生活, 見通し, 安心感, 余暇, 思いを伝える

【対象生徒の情報】

○学年 高等部3年(18歳)

○障害と困難の内容 知的障害を伴う自閉症 てんかん

- ・S-M 社会生活能力検査 (SH6-10 L6-0 08-7 C3-0 S3-3 SD5-0 SQ29 SA5-1) H30.3.20 実施
- ・聴覚過敏のため、イヤーマフをつけている。
- ・最近てんかん発作は起きていない。

【活動目的】

○当初のねらい

1年後の「はたらく生活」に向け、必要な力を身につける。

- ①見通しをもって日常生活を送ることができる。
- ②コミュニケーションカードや簡単な言葉で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができる。
- ③休み時間や家庭での余暇を拡充する。

○実施期間 平成30年4月～平成31年2月(継続中)

○実施者 廣瀬 優佳里

○実施者と対象生徒の関係 担任

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

- ・女子生徒
- ・4月より生活介護事業所のサービス利用予定。

<学習面>

- ・ひらがな・カタカナの読み書きができ、小学校 1,2 年程度の漢字は視写することができる。ただ、読み書きのできる文字を使って書かれたまとまりのある文章を読んでも、十分に理解できないことがある。
- ・30 程度までの数の線結びをしたり、数を数えたりすることができる。

<生活面>

- ・文字(ひらがな)とイラスト、写真のスケジュール(紙媒体)に沿って活動できる。数日分のスケジュールを提示していると自分で確認をしている。
- ・スケジュールや手順書等の視覚的支援があると見通しをもち、安心して生活できることが多い。
- ・変更や新しい活動にはかなり不安な様子を示す。
- ・イヤーマフを毎日つけている。不安度が高い時には、イヤーマフの下を片手であるいは両手で押さえていることがある。活動する際には手が使えず、支援が必要なことがある。慣れた教室や仲間等での活動の際はイヤーマフのみで活動できることも多い。
- ・家庭では、iPod で音楽を聞いたり、パズルをしたりして過ごしている。iPad 等の機器の簡単な操作はできる。
- ・家庭での余暇活動としては、ピアノを弾いたり、プールで歩いたり、音楽を聴いたりすることが多い。パズルや色塗り等には、30 分程度集中して取り組むことができる。学校での休憩時間はパズルや折り紙、アイロンビーズ等を準備しているが、自分で選ぶ時はパズルを選ぶことが多い。しかし、本当にパズルを好んで選択しているかは不確か。

<行動面>

- ・見通しがもてなかったり、苦手な音が聞こえたりして不安なとき、衝動的・多動的行動が見られることが多い。例えば、物の位置が気になり、視界に入るいろいろな物をいつもと同じ場所や方向に戻そうとする（開いているドアを見つけると閉める、黒板消しやかご、マットの位置を動かす等）。その際、行動が速く、人や物にぶつかることも多い。

<コミュニケーション面>

- ・意思の表出が難しい。PECS や絵カード、簡単な問いかけによる返答でのコミュニケーションを学習中。「いやだ」「はい」「ついてきてください」等、小さな声で伝えることができる言葉がいくつかある。よく話しかけられる簡単な問いかけ（例えば、「トイレに行く?」「お茶を飲む?」「○○食べる?」等）にうなずいたり「はい」や「しません」と返答したりすることがある。

○活動の具体的内容

<現在>



3月12日(木)	日	時間	場所
□ 10:00~10:30 だす			
□ 10:30~11:00 だす			
□ 11:00~11:30 だす			
□ 11:30~12:00 だす			
□ 12:00~12:30 だす			
□ 12:30~13:00 だす			
□ 13:00~13:30 だす			
□ 13:30~14:00 だす			
□ 14:00~14:30 だす			
□ 14:30~15:00 だす			
□ 15:00~15:30 だす			
□ 15:30~16:00 だす			
□ 16:00~16:30 だす			
□ 16:30~17:00 だす			
□ 17:00~17:30 だす			
□ 17:30~18:00 だす			
□ 18:00~18:30 だす			
□ 18:30~19:00 だす			
□ 19:00~19:30 だす			
□ 19:30~20:00 だす			
□ 20:00~20:30 だす			
□ 20:30~21:00 だす			
□ 21:00~21:30 だす			
□ 21:30~22:00 だす			
□ 22:00~22:30 だす			
□ 22:30~23:00 だす			
□ 23:00~23:30 だす			
□ 23:30~24:00 だす			
□ 24:00~24:30 だす			
□ 24:30~25:00 だす			
□ 25:00~25:30 だす			
□ 25:30~26:00 だす			
□ 26:00~26:30 だす			
□ 26:30~27:00 だす			
□ 27:00~27:30 だす			
□ 27:30~28:00 だす			
□ 28:00~28:30 だす			
□ 28:30~29:00 だす			
□ 29:00~29:30 だす			
□ 29:30~30:00 だす			
□ 30:00~30:30 だす			
□ 30:30~31:00 だす			
□ 31:00~31:30 だす			
□ 31:30~32:00 だす			
□ 32:00~32:30 だす			
□ 32:30~33:00 だす			
□ 33:00~33:30 だす			
□ 33:30~34:00 だす			
□ 34:00~34:30 だす			
□ 34:30~35:00 だす			
□ 35:00~35:30 だす			
□ 35:30~36:00 だす			
□ 36:00~36:30 だす			
□ 36:30~37:00 だす			
□ 37:00~37:30 だす			
□ 37:30~38:00 だす			
□ 38:00~38:30 だす			
□ 38:30~39:00 だす			
□ 39:00~39:30 だす			
□ 39:30~40:00 だす			
□ 40:00~40:30 だす			
□ 40:30~41:00 だす			
□ 41:00~41:30 だす			
□ 41:30~42:00 だす			
□ 42:00~42:30 だす			
□ 42:30~43:00 だす			
□ 43:00~43:30 だす			
□ 43:30~44:00 だす			
□ 44:00~44:30 だす			
□ 44:30~45:00 だす			
□ 45:00~45:30 だす			
□ 45:30~46:00 だす			
□ 46:00~46:30 だす			
□ 46:30~47:00 だす			
□ 47:00~47:30 だす			
□ 47:30~48:00 だす			
□ 48:00~48:30 だす			
□ 48:30~49:00 だす			
□ 49:00~49:30 だす			
□ 49:30~50:00 だす			
□ 50:00~50:30 だす			
□ 50:30~51:00 だす			
□ 51:00~51:30 だす			
□ 51:30~52:00 だす			
□ 52:00~52:30 だす			
□ 52:30~53:00 だす			
□ 53:00~53:30 だす			
□ 53:30~54:00 だす			
□ 54:00~54:30 だす			
□ 54:30~55:00 だす			
□ 55:00~55:30 だす			
□ 55:30~56:00 だす			
□ 56:00~56:30 だす			
□ 56:30~57:00 だす			
□ 57:00~57:30 だす			
□ 57:30~58:00 だす			
□ 58:00~58:30 だす			
□ 58:30~59:00 だす			
□ 59:00~59:30 だす			
□ 59:30~60:00 だす			
□ 60:00~60:30 だす			
□ 60:30~61:00 だす			
□ 61:00~61:30 だす			
□ 61:30~62:00 だす			
□ 62:00~62:30 だす			
□ 62:30~63:00 だす			
□ 63:00~63:30 だす			
□ 63:30~64:00 だす			
□ 64:00~64:30 だす			
□ 64:30~65:00 だす			
□ 65:00~65:30 だす			
□ 65:30~66:00 だす			
□ 66:00~66:30 だす			
□ 66:30~67:00 だす			
□ 67:00~67:30 だす			
□ 67:30~68:00 だす			
□ 68:00~68:30 だす			
□ 68:30~69:00 だす			
□ 69:00~69:30 だす			
□ 69:30~70:00 だす			
□ 70:00~70:30 だす			
□ 70:30~71:00 だす			
□ 71:00~71:30 だす			
□ 71:30~72:00 だす			
□ 72:00~72:30 だす			
□ 72:30~73:00 だす			
□ 73:00~73:30 だす			
□ 73:30~74:00 だす			
□ 74:00~74:30 だす			
□ 74:30~75:00 だす			
□ 75:00~75:30 だす			
□ 75:30~76:00 だす			
□ 76:00~76:30 だす			
□ 76:30~77:00 だす			
□ 77:00~77:30 だす			
□ 77:30~78:00 だす			
□ 78:00~78:30 だす			
□ 78:30~79:00 だす			
□ 79:00~79:30 だす			
□ 79:30~80:00 だす			
□ 80:00~80:30 だす			
□ 80:30~81:00 だす			
□ 81:00~81:30 だす			
□ 81:30~82:00 だす			
□ 82:00~82:30 だす			
□ 82:30~83:00 だす			
□ 83:00~83:30 だす			
□ 83:30~84:00 だす			
□ 84:00~84:30 だす			
□ 84:30~85:00 だす			
□ 85:00~85:30 だす			
□ 85:30~86:00 だす			
□ 86:00~86:30 だす			
□ 86:30~87:00 だす			
□ 87:00~87:30 だす			
□ 87:30~88:00 だす			
□ 88:00~88:30 だす			
□ 88:30~89:00 だす			
□ 89:00~89:30 だす			
□ 89:30~90:00 だす			
□ 90:00~90:30 だす			
□ 90:30~91:00 だす			
□ 91:00~91:30 だす			
□ 91:30~92:00 だす			
□ 92:00~92:30 だす			
□ 92:30~93:00 だす			
□ 93:00~93:30 だす			
□ 93:30~94:00 だす			
□ 94:00~94:30 だす			
□ 94:30~95:00 だす			
□ 95:00~95:30 だす			
□ 95:30~96:00 だす			
□ 96:00~96:30 だす			
□ 96:30~97:00 だす			
□ 97:00~97:30 だす			
□ 97:30~98:00 だす			
□ 98:00~98:30 だす			
□ 98:30~99:00 だす			
□ 99:00~99:30 だす			
□ 99:30~100:00 だす			

<卒業後>



- ・生徒が操作可能
- ・携帯できる
- ・様々な活用法有...

将来の生活をイメージしながら、今よりちょっと生活しやすい将来を実現するために iPad の活用方法を検討

①見通しをもって日常生活を送ることができるために

- ・学校生活や作業学習、職場体験実習等で安定して活動ができるように、絵や写真、文字等で活動の流れを伝えることができるスケジュールアプリを活用する。【DropTalk】



Drop Talk

②休み時間や家庭での余暇を拡充するために

- ・生徒の実態把握を行い、生徒が好きなことや苦手なことを探る。休み時間の過ごし方として複数の選択肢を提示し、生徒が選択したものを記録する。【DropTalk】
- ・好きなことに就労先や外出先等でも取り組めるよう、携帯可能な方法を探る。携帯可能な方法として、タブレット端末の活用も検討する。



Jigsaw Puzzle



Jigty



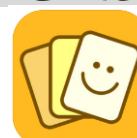
ColorArt Coloring Book



Drop Talk

③コミュニケーションカードや簡単な言葉で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができるために

- ・生徒が獲得し、使うことができる語彙の把握をするために、アプリ【えこみゅ】【DropTalk】を使用したり、メモをしたりしながら記録をする。
- ・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるように、事前に準備された絵カードや音声を使って代替表現できる VOCA アプリ等を使用する。【DropTalk】【Our Story for iPad】



えこみゅ



Drop Talk



Our Story for iPad

○対象生徒の事後の変化

①見通しをもって日常生活を送るための取組(4月～)

(1)見通しをもつことができるよう紙媒体でのスケジュール提示(4月～)

4月当初、昨年度の引継ぎを受けて、見通しをもって生活できるようにスケジュール提示の方法を検討。昨年度までは、[図1]のような紙媒体でのスケジュール提示だった。家庭でも生徒はiPadの操作をしているようだったので、[図2]のように【DropTalk】を使ったスケジュール提示を行ってみた。しかし、年度当初はiPadでのスケジュール提示を嫌がる様子が見られた。4月は学年が変わり、担任やクラスが変わり、毎日いろいろな季節的な行事があり変化の大きな時期であり、さらにスケジュール提示の方法も変わったことは生徒にとって変化が大きすぎた様子だった。そこで、まずは紙媒体でのリスト式スケジュールを提示し、新しい学年、教室、活動等の中でも生徒が安心して生活できるようにした。[図3]のように昨年度までのスケジュールを参考にしながら、写真やイラストを使い、よりスケジュールを明確に伝えるようにした。また、紙媒体でのスケジュール確認から、【DropTalk】での提示にスムーズに移行できるように、ドロップスのイラストを使用した。文字や写真、イラストを使ったスケジュールを毎日提示することで、見通しをもち、落ち着いて学校生活を送る姿が見られた。多少スケジュールに変更があっても、スケジュールに沿って活動できた。

(2) iPadでのスケジュール提示(6月～)

紙媒体でのスケジュール提示に慣れ、落ち着いて生活できるようになってきたところで、[図4]のように紙でのスケジュールは提示しながら、同時にiPadでのスケジュール提示[図2]を再開し、教師が生徒の前でiPadでのスケジュール確認の方法を示すようにした。iPadを使ったスケジュール提示に慣れてきたところで、紙のスケジュールをはずし、iPadのみの提示。しかしまず操作は教師。そして一人で操作と少しずつ支援をはずしていくことで、一人でiPadでのスケジュール確認ができるようになった。



[図4 iPadでのスケジュール提示までの手だての様子]

3月15日(木)	じかん	つかうもの
☐ につかちようを だす		
☒ ドアをしめる こういしつ		
☐ きがえ たいそうふく たいいくセット		
☐ 朝のうんどう サーキット ランニング		
☐ トイレ おちゃ きょうけい		
☐ 朝の会 きょうけい	3:20	
☐ きょうけい		いるえんびつ
☐ すうかく おねんきょうしつ		あおバグ
☐ たいい おちゃ		
☐ きょうけい		

[図1 昨年度までのスケジュール]



Drop Talk



[図2 iPadを使ったスケジュール提示]

6月14日(木)	じかん	つかうもの
☐ につかちようを だす		
☒ こういしつ ドアをしめる		
☐ きがえ たいそうふく たいいくセット		
☐ 朝のうんどう サーキット		
☒ こういしつ ドアをしめる		
☐ きがえ さぎょうふく		
☐ お茶		
☐ きょうけい きょうしつ		
☐ 朝の会		
☐ トイレ		
☐ お茶		

[図3 紙のスケジュール]

【DropTalk】は活動が終了しタップをすると、終わったスケジュールが消えていくため、終わりも見えて分かりやすいようだった。現在では自分で iPad でスケジュールを確認することができている[図5]。iPad でのスケジュール提示を始めた頃は、机の上にタブレットを置いていても気にせず道具を上置きしたり、時には iPad が机の下に落ちてしまっても気にする様子が全くなかったりしていた対象生徒。しかし、今では教師がいなくても自分で朝登校するとタブレットを見つけスケジュールを確認し、自分の机の上に丁寧に置くことができている[図6]。見通しをもって日常生活を送るために自分の生活に必要な道具と本人が感じてくれるようになってきていることが伝わってくる。



〔図5 iPadでスケジュールを確認〕〔図6 登校後自分でiPadを準備〕

<エピソード>

ある日生徒の指に、ささむけが。ささむけを見つけると、すぐに取りろうとしてしまう生徒。すぐに「指から血が出ているので保健室に行きます」と言葉かけをした。しかし、「いやだ」と動こうとしなかった。そこで、言葉かけでは分かりにくかったかと思い、次は紙に文字で「ほけんしつにいきます」と書き、言葉かけとあわせて促してみた。しかし「いやだ」の一言だった。さらに、iPadのスケジュールに保健室のスケジュールを追加し、言葉かけをしながら iPad を提示すると、すぐに「はい」と返事をして立ち上がり保健室に向かい治療ができた。急な変更が苦手な対象生徒だが、イラストを使ってその場で変更内容や、変更後のスケジュールを視覚的に分かりやすく提示ができる iPad。ちょっとした支援が、生徒にとっては、とても分かりやすく安心できる支援になることが分かった。



②コミュニケーションカードや簡単な言葉で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができるために

(1) 生徒が獲得し、使うことができる語彙の把握をするために、アプリ(【DropTalk】【えこみゅ】)を使用したり、メモをしたりしながら記録をする取組(6月～)

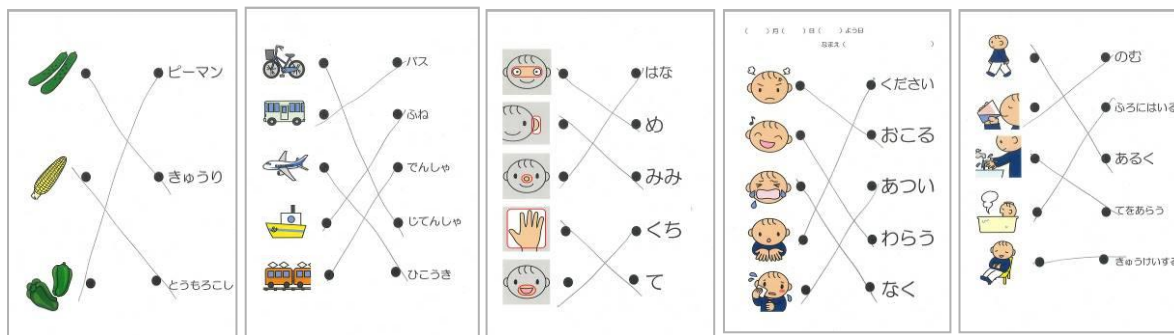
生徒のコミュニケーションの幅を広げるために、生徒が物の名前や表情のイラスト等をどの程度理解しているか実態把握を行った。

まず、【DropTalk】【えこみゅ】を使い教師が「車はどれ?」「スイカはどれ?」と尋ね、該当するイラストをタップして答える様子を観察しようと考えた[図7]。しかし、アプリを使った操作は「いやだ」と伝える対象生徒。そこで、後日これまでも取り組んだことのある線つなぎ[図8]で、語彙の確認を行った。動物や食べ物、飲み物、乗り物、人の表情等と文字をつなぐようにした。いろ



〔図7 アプリを使って語彙の把握〕

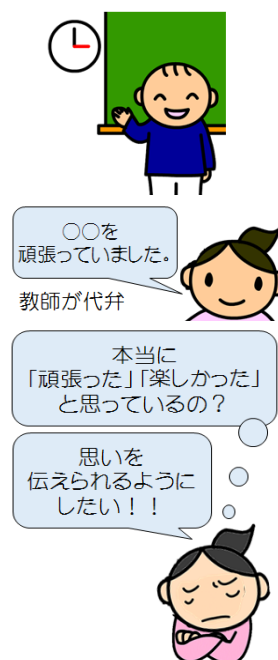
いろな種類の課題を示したが、どの項目も迷うことなく、全て正確に結ぶことができた。生徒が普段発語は少ないものの、物の名前をよく知っていること。物の名前以外にも、動詞や気持ちを表す言葉等も理解していること。スケジュール等で提示しようとしているイラストの意味を理解していること。文字とイラストの結びつきを理解していること等が分かった。また、線結びに取り組む生徒の様子を観察することで、見てやり方が分かりやすい方法であれば作業ができることが分かった。これまでに何かを選択する経験が少なかったのではないかという感じも受けた。実態把握で見えてきた生徒の得意なことや課題を活かし実践を進めた。



〔図8 生徒の語彙確認用線つなぎプリントの一部〕

(2) 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるように、事前に準備された絵カードや音声を使って代替表現できる VOCA アプリ【DropTalk】等を使用する取組

毎日朝の会では今日一日で頑張りたいことを、そして帰りの会では頑張ったことを発表する場面がある。対象生徒は発語がほとんどなく、これまで朝の会や帰りの会での発表場面では自分の思いを伝えることはなかった。教師が一日の活動の中で生徒が頑張れそうな活動を伝えたり、一日を振り返りよく活動していた場面やよい表情が見られた活動を頑張ったこととして伝えたりしてきた。そこで生徒が自分の頑張りたいことや頑張ったことを伝えたり、決められたセリフだとしても、自分で機器の力を借りながら友だちに発信したりする場を繰り返し設定した。生徒が伝えた言葉にすぐに周りの友だちが反応してくれる経験を繰り返すことが、自分から何かを伝えたいという思いをもつきっかけになるのではないかと考えた。少しでも「自分の思いを伝えた」という経験を繰り返し、「もっと伝えたい」という思いを広げていくために、まず朝の会や帰りの会での頑張りたいこと、頑張ったこと発表の場面で相手に思いを伝える経験を積む取組を行うこととした。



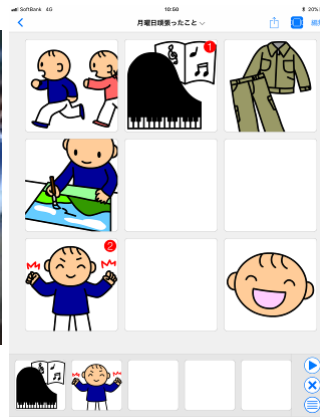
・帰りの会前の頑張ったこと選択と帰りの会での頑張ったこと発表の取組(5月～)

まず、一日の生徒の様子を観察し、生徒も教師も頑張っていたと判断できたことを、帰りの会で「今日頑張ったこと」として発表することから取組を始めた。iPad を操作し何かを選択することはこれまであまり経験したことがないことであったため、「いやだ」と思いを示した。そこで[図9]のようなプリントで選択をし、思いが表現できるように変更をした。このプリントへの記入もはじめは抵抗が強かったが、教師が生徒の前で、「朝の運動頑張った?」「刺し子頑張った?」と尋ね、生徒の顔の有無等を確認し、生徒の目の前で丸をつけるようにしたことで、表現できるようになった。選択肢については、複数選択では抵抗を示したので、2択から3択4択と数を増やし、現在は複数並べていてもその中から頑張ったことを自分で選択し、丸をつけられるようになってきた[図11]。選択する際に使用するイラストは、その日にスケジュールで提示したイラストを使うようにしたことで、迷わず選択する様子が見られている。現在は自分で頑張ったこととして選択したことを iPad

の VOCA 機能を使って友だちに伝えることに取り組んでいる[図12]。



[図11 選択する生徒]



[図12 iPad での選択画面]



[図9 がんばったこと2択]



[図10 がんばったこと3択]

<エピソード>

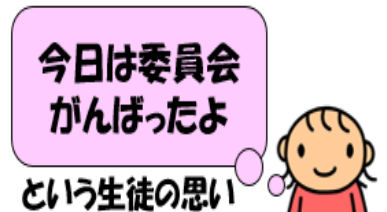
毎日振り返りに取り組み、複数の中からも自分の頑張ったことを選ぶことができるようになった対象生徒。生徒の選択の様子も、少しずつ変化し、丸をつける場面では、一度選択肢を見まわし記入をするようになってきた。自分で考え、丸をつけることができている様子が見えてくる。[図13]のワークシートからは生徒の「今日は委員会頑張ったよ」という思いが伝わってくる。実際に、この日は委員会活動でクリスマスお楽しみ給食に向け飾り作りを任せられ、得意のはさみやのりを使った飾りづくりを時間いっぱい行った。教師も頑張った活動として納得の選択肢だった。このように生徒が頑張ったこととして選択した活動と、教師が頑張っていたと評価する活動がしっかりあうようになってきた。

そして、頑張ったことの選択が随分定着してきたある日。

[図14]のワークシートを手渡すと、生徒は今日の活動はすらすら書いたものの、頑張ったことの選択のところになるとさっと鉛筆をおろした。「ここ書いて?」と鉛筆をもう一度手渡したが、鉛筆を受け取ってくれなかった。「がんばったことないの?」と尋ねると、うんと大きくうなずいていた。生徒の「今日は頑張ったことはなかったよ」という思いの表現だった。何かに適当に○をつ



[図13 がんばったこと選択]



けるのではなく、頑張ったことを思い出し、考えて選んでいる、思いをしっかりと表現していると実感し、その表現ができるようになったことを知ることができてとてもうれしい一場面だった。

今日は頑張ったこと
なかったよ…

という生徒の思い



()月()日()曜日 てんき()

〇きょうの かつどう

あさのうんどう すうがく

あさのうんどう

〇きょうの かんそう

わたしが きょう がんばったこと は

あさのうんどう	すうがく	そうごう

だいいく

選択せず…

です。

〔図14 がんばったこと選択〕

・朝の会での頑張ること選択の取組(7月～)

帰りの会前に取り組んでいる頑張ったこと選択に少し慣れてきたので、帰りの会同様のプリントを使って、朝の会の前に頑張りたいことを生徒に尋ねる活動を行っている。「今日頑張ることは音楽?」「数学?」といくつか活動を探ね、生徒がうなずいた活動を朝の会で伝えることを繰り返している。

・朝の会や帰りの会の司会で友だちとコミュニケーションを取る取組(9月～)

自分の要求や気持ち等を伝えるための3つ目の実践として、朝の会や帰りの会の司会に取り組んだ。これまでは、生徒は司会の日は前には出てくるものの、教師が司会のカードを読んで会を進めたり、生徒が小さな声で司会カードを読み進めたりしていた〔図15〕。司会している際には、友だちの様子を見る姿はあまり見られず、下を向いたまま、促されると司会のカードを小さな声で読んでいた。周りの生徒はそんな対象生徒の様子に慣れているので、小さな声で司会をしても、次はこの活動なのでこんな反応をすればよいだろうと反応し、なんとなく会が進む状況だった。そこで、生徒のセルフがはっきり相手に伝わるように【DropTalk】で司会を行うことができるようにした。生徒が安心して iPad を操作できるまで、まずは、教師が操作方法を繰り返し見せるようにした〔図16〕。最初は全く iPad の画面を見ようとしなかったが、少しずつ操作の仕方を見て確認するようになってきた。さらに、教師が画面を押した後友だちの名前が呼ばれる場面では、その友だちの方を見て確認する姿も見られるようになってきた〔図17〕。司会中に笑顔も見られるようになり、友だちとのやりとりを楽しんできている様子がうかがわれた。

さらに司会を繰り返していくうちに、操作の一部を自分でやろうとするようになった。少しの教師の支援で司会を進められるようになった。



〔図15 小さな声で司会をする生徒〕



〔図16 朝の会司会練習中の生徒〕



〔図17 笑顔で友だちの方を向き
友だちの反応を待つ生徒〕

そして11月、教師が少し他の生徒の支援をしていると、一人で朝の会を始めた生徒。教師が驚いただけでなく、自然に友だちからも朝の会が終わると拍手が起き、「○○さんすごい」「ひとりでできたやん」と褒められてうれしそうだった。この日の帰りの会も、一人で最後まで司会ができみんなにいっぱい拍手をされた。連絡帳で司会の様子をお伝えすると家庭でも、すぐに「今日、○○ちゃん司会したの?」と尋ねてくださったとのこと。「うれしそうに大きくなずいていましたよ」と教えてくださった。学校でも家庭でも褒められ、生徒の自信にもつながったのではないかと考える。そして現在も毎回朝の会・帰りの会の司会に一人で取り組んでいる。対象生徒はみんなをよく見ながらやりとりし、楽しそうに司会をしている。数か月前はなかなか顔も上らず、下を向いたまま小さな声で司会をしていた対象生徒。今までなかった、新しい友だちとのコミュニケーションの1つになっている。



〔図18 一人で笑顔で司会をする生徒〕

・朝の会や帰りの会の司会以外で思いを表現する取組(11月～)

4つ目の取組として、朝の会や帰りの会の司会以外の場面でも、友だちに自分の思いを伝える場面を作る取組を行った。11月の現場実習後の報告会で、友だちの前で頑張ったこと等を発表する際に、【Our story for iPad】を使った。初めてアワーストーリーを使ったが、操作が簡単で、一度操作の仕方を伝えたと一人で次々にページをめくることができた〔図19〕。練習後、高等部生徒全員に先生方、保護者の方とたくさんの人の前でも【Our story for iPad】を使って一人で発表ができた。「私も一人でできたぞ!!」という経験ができたのではないかと感じた。この日の帰りの会の振り返りで、生徒はみんなの前での発表したことを、頑張ったことに選んでいた。



〔図19 発表練習をする生徒〕

さらに2月に実施された学習発表会では、全校生徒や地域の方、保護者の方等たくさんの方が体育館に集まった。その中でも、この1年間頑張ってきたことや将来のはたらく生活に向け頑張りたいことを一人で【Our story for iPad】を使って発表をすることができた〔図20〕。



〔図20 ステージで一人で発表〕

<エピソード>

本校では年に2回現場実習が実施される。6月の前期現場実習では困ったことがあっても、じっと止まってしまっていた生徒。しかし、5 か月後の11月の実習では困っている時に手伝ってくださいと言ったり、作業が終わるとカードと一緒に「終わりました」と言ったりすることができるようになった。職場の方からも褒められていた。学校以外の場でも、自分の要求等を伝えられるようになってきている。



〔図21 実習先で報告をする生徒〕

②コミュニケーションカードや簡単な言葉で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができるために

③休み時間や家庭での余暇を拡充するために

(1) 生徒の実態把握を行い、生徒が好きなことや苦手なことを探る取組(4月～)

昨年度までは、休み時間はスケジュールに示された活動に取り組んでいた対象生徒[図22]。今年度担任になり、よくパズルをやっている生徒の姿に「パズルが好きなのかな?」「休憩を自分で選べたらいいな」「生徒の好きなことって何だろう」と感じた。そこで、絵カードで生徒が休憩を選択し、伝えることができないかと考えた。思いを表現することが少ない生徒にとって、休憩の選択は自分の思いを表現する力を育てることにつながると考え取り組んだ。

記録場面 休み時間

記録方法 最初は[図23]のような絵カードで指さして伝えることから始めた。生徒が選択した内容は教師が記録をした。選択に慣れてきたところで、[図24]のように【DropTalk】の画面をタップすることで伝えるようにした。生徒がタップしたものは【DropTalk】のログ機能で記録するようにした[図25]。休み時間の過ごし方として複数の選択肢を提示し、生徒が選択できるようにした。

3月15日(木)		じかん	つかうもの
☐ にっかつようき だす			
☒ ドアをのめる こいしつ			
☐ きがき たいどうふく			
☐ ぬいぐるみ			
☐ ぬいぐるみ うんどうふく			
☐ トイレ おちや きょうけい			
☒ ぬいぐるみ きょうけい	9:20		
☐ きがき			いるえんぴつ
☐ すうかく きんきょうしつ			あおバグ
☐ トイレ おちや			
☐ きがき			
☒ しんがくしやう かいせつ			あおバグ
☐ きがき			

[図22 これまでのスケジュール]



Drop Talk



[図23 絵カード]



[図24 iPad で選択]



[図25 ログ記録画面]

[表1]は生徒が選択した結果である。[表1]のように、4月当初は「パズル」が一番選択されることが多かったが、その他に「はさみ」や「毛布」「いろぬり」「何もしない」等を選択することがあった。しかし、9月以降は、「何もしない」の選択が増えていった。

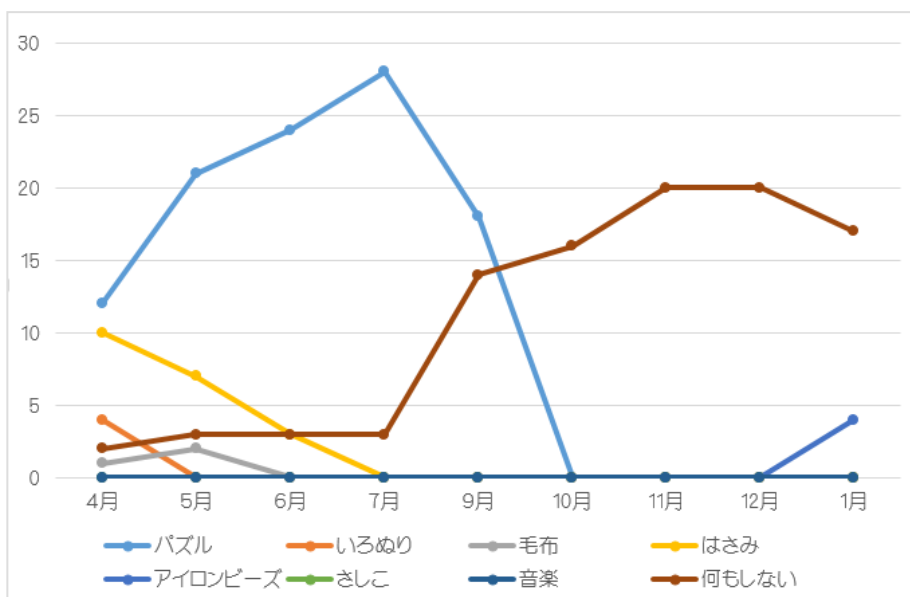
9月に「何もしない」が増えたのは、夏やすみ明けで学校もクラスも友だちも、本人もまだ落ち着かない上に教育実習が始まり不安だったため、何もしないで過ごしたいと生徒が考えたと思われる。また、家庭での夏休みの生活の様子を尋ねると、

毎日のように 1,000 ピースのパズルを完成させていたとのこと。9月当初学校で提示したパズルは夏休み前に使っていたもので、生徒にとって魅力的なものではなかったことも、パズルを選択する回数が少なくなった理由として考えられた。

さらに、「何もしない」を選択したときは、9月のように不安で落ち着かない様子のときは自分の席でじっと座ったまま過ごすということ

もあるが、普段の生活の日は、よく

[表1 対象生徒が選択した休憩内容]



↑ [表1]はそれぞれの月の1週間分の記録をまとめ表にしたものである。

周りの友だちの様子を見ている。友だちを見て笑っていることもよくある。少し前から、お気に入りの椅子があり、そこに座ってみんなを見るのが好きな様子である。



(2) 好きな活動の選択の幅を広げる取組(9月～)

7月までの休憩時間の選択[表1]や夏休みの様子から、パズルは好きな活動の1つと考えられた。そこで、パズルを新しくしてみることにした【Jigsaw Puzzle】【Jigty】。色塗りも得意な活動なので、【Colorart Coloring Book】も準備した。しかし、タブレットを使ったアプリでのパズル等には取り組もうとしなかった。そこで、新しくパズルを作成し、選択できるパズルの種類を増やし[図26]、好きなパズルを自分で選択し伝える取組を行った。

休憩を選択するとき同様、【DropTalk】の画面をタップするようにした[図27]。

生徒は新しいパズルの中から自分がやってみたいパズルを自分で選び、笑顔で取り組んでいた[図28]。



〔図26 新しく作ったパズル〕



〔図27 パズルの選択〕



〔図28 楽しそうにパズルをする生徒〕

<エピソード>

ある日、対象生徒のパズルに興味をもったクラスの友だちもパズルを始めた。しかし、他の生徒には新しいパズルが難しすぎたようで、2人がかりで取り組んでも解決できず、「○○さん(対象生徒)に、やってもらおう!!」という話になった。すると、あっという間に組み立ててしまった対象生徒に、他の生徒は驚きみんな拍手。そして、「○○さんすごい!」「何で分かるの?」と褒められ対象生徒はとてもうれしそうにしていた[図29]。生徒の得意なことで、友だちとのコミュニケーションが広がる可能性を感じる一場面だった。



〔図29 出来上がったパズルを褒められる生徒〕

【報告者の気づきとエビデンス】

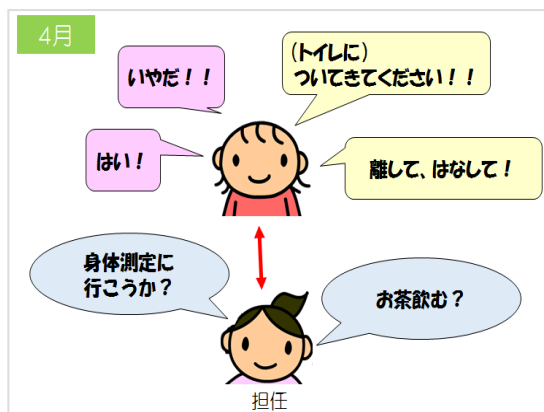
○主観的気づき

- ・実態把握を進めることで、これまで思いを伝える場面が少なかっただけで、実は生徒はいろいろな言葉をもっている、知っていることが分かった。
- ・スケジュールアプリを活用し、視覚的にスケジュール提示を行うことで見通しをもち安心して毎日過ごす姿が見られるようになった。
- ・自分の要求や気持ち等を周りの人に伝える場面を iPad の力も借りながら繰り返し設定し、やりとりする経験を積むことで、人とのやりとりを笑顔で楽しむ姿や要求をカードや簡単な言葉で表現する姿を様々な場面で見ることができるようになった。
- ・余暇については当初はパズルが好きな活動だと考えていたが、嫌いな活動ではないようだが、クラスの休み時間では「何もしない」を選択し、椅子に座ってゆっくりしたり、友だちの様子を見たりすることが好きなことの 1 つであることが分かった。

○エビデンス(具体的数値など)

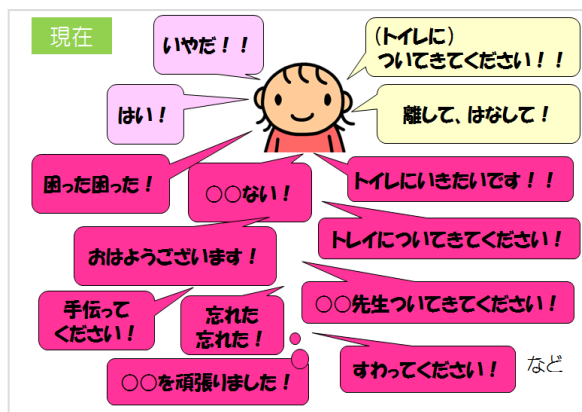
- ・自分の要求や気持ちを周りの人に伝えることについて

⇒4月の対象生徒の学校でのやりとりは、「身体測定にいこうか？」等嫌なことや、分かりにくい質問に「いやだ」と答えたり、「お茶を飲む？」等よく聞く、

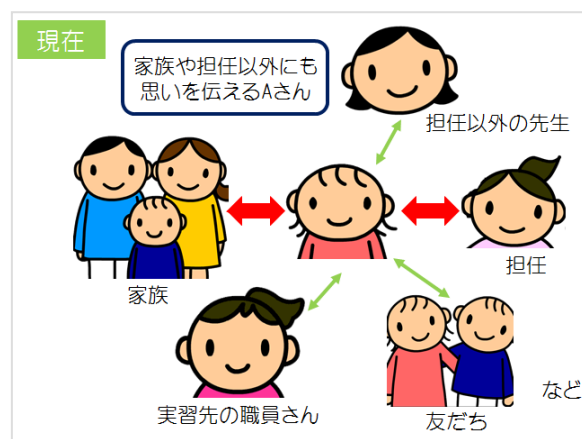


〔図30 4月当初のコミュニケーション〕

分かりやすい質問に「はい!」と言ったり、うなずいたりする。また、トイレに行きたいときに小さな声で「ついてきてください!」と言ったり、触られたり、近づかれたりしたくないときに、「離して離して!」と言ったりと生徒からの発語はこれだけだった。しかもコミュニケーションをとる相手は担任のみ。限られた人と、限られた言葉だけのコミュニケーションだった〔図30〕。現在は思いを伝えるための言葉のバリエーションが増えてきている〔図31〕。発する言葉の数だけでなく、使う場面や相手も少しずつ広がってきている〔図32〕。4月は家族と担任へ要求を伝える対象生徒だったが、現在は担任や家族への要求はバリエーションが増え、さらに担任以外の教師に要求を伝えたり、職場の方、そして最近は友だちにも「手伝ってください!」と自分から伝える場面も出てきたりしている。自分の思いを伝える相手や伝える方法が広がっている。



〔図31 現在のコミュニケーション〕



〔図32 現在の主なコミュニケーション相手〕

・休み時間や家庭の余暇について

⇒9月以降もアプリを使って余暇を広げようとしたり、パズルを新しく作ったりしたもの、P.9 の[表1]に示す通り、対象生徒が選択する項目に大きな変化は見られなかった。4月からの余暇生活に向け、家庭と協力して、魅力的な活動を見つけなくてはいろいろな活動を準備して、焦っていた。しかし、「何もしない」を選択したときの対象生徒は、自分のお気に入りの椅子に座り、友だちを見て「フフフ〜」と笑っていることが多い[図33]。「何もしない」を選択して、周りの友だちの様子を見てゆっくり過ごすことが、生徒にとって心地よい時間になっていることが分かった。学校で何もしないを選択するようになった頃、家庭でもスケジュールに「iPod で音楽を聞く」と示されていた余暇の時間に、自分でソファに横になりゆっくり過ごす姿が見られたとのこと。生徒の休憩時間の選択の様子[表1]や休み時間の過ごし方より、ゆっくりした時間を過ごすことを楽しむことができることが分かった。また、余暇活動を広げたい、休み時間も何か活動ができるようになってほしいと願い、よかれと思って行っていた支援が生徒にとってはそうではないこともあることが分かった。そして、生徒の思いやゆっくり過ごすその時間を一緒に楽しむことも必要であることが分かった。



〔図33 お気に入りの椅子に座り
友だちの様子を見る生徒〕

○今後の見通し

・自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができるについて

実践を進める中で、「困った困った」等初めて聞く生徒の言葉に、こんな言葉知っているのだと教師もびっくりすることがあった。まだまだ発する言葉は困ったことを回避するための言葉がほとんどだが、これから学校を卒業し、職場で働き、社会で生活していくために生徒にとって必要な言葉である。うまく伝わらないこともあるが、教師に伝える言葉を選んで使おうとしている様子が見られる。少しずつみんなに伝わる言葉になるよう、また思いを伝える場面が広がるよう今後も支援を続けていく。

・今後、事業所等との移行支援会議を行っていく中で、今年度の実践の様子を伝え、取組の中で継続して取り組んでいくもの、今後は取組の必要のないもの、新たに取り組む必要があるもの等の検討を再度行い今後の支援の方向性を明確にし、卒業に向け準備を進めていく。